

令和5年度

昼間コース

基礎ゼミ

留学生との共修ゼミ

演習指針

長崎大学経済学部

○基礎ゼミ

前期

月曜日 4校時開講

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 井 畑 陽 平

課題テーマ	法が社会で果たす役割について、理解を深める。
内容と方法	<p>内容</p> <p>指定したテキストを基に、法が社会で果たす役割について、経済学・経営学・社会学等の隣接する社会科学の知見を参照しつつ、理解を深める。</p> <p>方法</p> <p>指定テキストの担当部分を割振り、各回報告者による報告の後、全員による討論を行う。</p>
到達目標	<p>① 現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけることができる。</p> <p>② 自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。</p> <p>③ 現代経済社会の課題に対して、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。</p>
テキスト	飯田高『法と社会科学をつなぐ』（有斐閣、2016年）
成績評価の方法と基準	<p>出席状況、課題への取り組み、主体的・積極的なゼミへの参加態度、報告やプレゼンテーション等総合的に判断する。アウトプットの成果（テキスト要約レポート提出状況、演習における適切なコメント等）を、評定にあたり最重要視するので、念のため、申し添える。</p> <p>他にも、① 報告後の討論において発言しない、② 欠席等により割り当てられた報告をしない、③ 正当な理由のない欠席が重なるなどは、歓迎されない。</p>
その他	経済学部にいながらも、法学に関心をもつ学生が望ましい。経済学に疲れたが、なお、主体的に学びたいという学生の応募を期待する。
教員連絡先	ibata▲nagasaki-u.ac.jp（▲を@に変えてください。）本ゼミの履修に関して不安なことや質問がある場合は、上記メールアドレスにご連絡ください。

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 大角 道子

課題テーマ	解析学に親しむ
内容と方法	<p>内容:</p> <p>解析学は経済学を含む諸分野への幅広い応用可能性を持ちます。本基礎ゼミでは、初学者向けの解析学テキストの問題を自分で解いてみることを通じて解析学に親しみます。</p> <p>なお、取り組むテキスト・章はグループごとに異なることを想定します。</p> <p>方法:</p> <p>事前に各章末の「練習」を担当者が解き、ゼミの時間に参加者に答案を解説します。「練習」に取り組む過程では、同じグループのメンバーと協力して勉強してください。ゼミでの解説にあたっては、練習問題の問題文にある用語の定義の説明を省かずに、分かりやすく伝えられるようなノートを作成してください。</p>
到達目標	<p>基礎ゼミは次の DP を授業到達目標としています。</p> <p>DP-3:自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。</p> <p>DP-4:現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。</p>
テキスト	<p>各グループごとに次のいずれかのテキストを用います。</p> <p>エリアス・M・スタイン、ラミ・シャカルチ著 新井仁之他訳『プリンストン解析学講義 I フーリエ解析入門』日本評論社 2007</p> <p>エリアス・M・スタイン、ラミ・シャカルチ著 新井仁之他訳『プリンストン解析学講義 III 実解析 ー 測度論、積分、およびヒルベルト空間』日本評論社 2017</p>
成績評価の方法と基準	ゼミでの質疑応答(25%)、報告担当者としての解説(25%)、章末の「問題」を解く課題レポート(50%)
その他	
教員連絡先	Email: ohgaku の後に@nagasaki-u.ac.jp を付与。

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 岡 田 裕 正

課題テーマ	会計学入門
内容と方法	<p>【内容】 本基礎ゼミの目的は、貸借対照表と損益計算書の基礎を習得することです。この目的のために、下記テキストに沿って、会計制度、貸借対照表や損益計算書に出てくる基本的な項目（例えば現金預金）の意味やそこに記載される金額の決め方などを学びます。 1年生で学習した簿記の知識を持っていることを前提にします。</p> <p>【方法】 テキストには 76 の項目が記載されています。毎回のゼミでは、平均 5～6 個（状況によって多少の増減はあります）について、あらかじめ決められた担当者が報告し、それについて全員で質疑をしてもらいます。 報告者は、テキストに記載される項目をまとめるだけでなく、各自不明な点などをしらべてきて、わかりやすくほかのゼミ生に話すように努めてもらいます。したがって、報告では、パワーポイント等を用いてレジュメを作成してもらいます。なお、毎回の報告者は複数名の予定です。 また、使用予定のテキストには、ところどころにトレーニング（練習問題）がついているので、その解答についても全員で検討してもらいます。このトレーニングは、最後、レポートとして提出してもらいます。</p>
到達目標	テキストに出てくる 76 項目は財務会計の基礎知識になるものです。これらに基づいて貸借対照表と損益計算書の概要を自分の言葉で説明できるようになることを目標とします。
テキスト	成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』 中央経済社¥2,200（税別）
成績評価の方法と基準	テキストに掲載されている 16 のトレーニング（50%） ゼミでの発表や質疑応答（50%）
その他	1年生で学習した簿記の知識または簿記 3 級程度の知識を前提にします。必要に応じて、仕訳をしてもらうことがあるので、知識を確実に持っていることを望みます。また、質疑を活発に行うため、事前の予習と復習をいとわない人を望みます。 なお、欠席するときは必ず連絡をしてください。
教員連絡先	h-okada@nagasaki-u.ac.jp

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 式見拓仙

課題テーマ	<u>線型代数</u>
内容と方法	<p>・経済の計量分析のためには線型代数の知識が不可欠である。この基礎ゼミでは線型代数のテキストを一つ取り上げ、輪読形式で学んでいく。事前に指定された範囲を担当者が勉強し、参加者に講ずる（適宜レジュメを配布すること）。また、練習問題に取り組んでもらうこともある。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none">① 現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけることができる。② 自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。③ 現代経済社会の課題に対して、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけることができる。
テキスト	川久保勝夫『なっとくする行列・ベクトル』講談社
成績評価の方法と基準	<p>ゼミへの貢献(60%)と試験(40%)によって評価する。ゼミへの貢献度は以下のような点を考慮して総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none">*ゼミに積極的に出席しているか、*担当者は十分に準備をして受講生にわかりやすく解説をしているか、*不明な点があれば積極的に質疑することによって理解しようとしているか。 <p>なお、席回数が3分の2に達しない受講生は失格とする。</p>
その他	予習・復習に十分時間を割かない限り理解は覚束ない。
教員連絡先	東南アジア研究所 2階 Email: shikimi@nagasaki-u.ac.jp

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 徐 陽

課題テーマ	入門会計学
内容と方法	<p>内容：</p> <p>1年生で受講した「簿記」の復習を踏まえ、はじめて会計学を学ぶ人を対象とし、広く会計学全般を身近に感じることができるよう、会計学について事例と共にわかりやすく学べ、基本的な枠組みを理解することができることを狙いとしています。そのため教科書としては、少しでも楽しく学べるように、イラストや平易な文書で会計学の基本を習得していきます。</p> <p>方法：</p> <p>テキストを輪読することとし、毎回報告者を決めて、事前に担当箇所をまとめ、理解したうえでレジュメを作成し、発表はプレゼンテーションの形式で報告してもらいます。その報告をもとに、全員で質疑応答、グループ・ディスカッション (Group Discussion)、等討論を行うことによる“検討”する場とし、相互交流を重視した展開を図るよう努めます。</p>
到達目標	<p>経済学部 HP の「受講の手引き (学部)」にあるカリキュラム・マップ」を見てください。</p> <p>基礎ゼミは次の DP を授業到達目標としています。</p> <p>DP-3：自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。</p> <p>DP-4：現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。</p>
テキスト	大塚宗春等著『テキスト入門会計学〈第6版〉』 中央経済社、2021年。
成績評価の方法と基準	<p>報告者としての報告内容と質疑応答 (50%)、講義中の質疑応答 (25%)、課題 (25%)。</p> <p>出席重視のほか、取り組み姿勢、及び、レジュメ内容等を総合的に判断して、成績を評価する。</p>
その他	オンラインによるリアルタイム形式で授業を行う場合、参加者はかならずカメラが付いている端末を使いカメラをオンにし、他の参加者に顔が見える状態にすること。
教員連絡先	本館5階、E-mail：jxuyang@nagasaki-u.ac.jp

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 福澤勝彦

課題テーマ	AIについて考えよう：ベイズの定理
内容と方法	<p>松原望著『ベイズの誓いーベイズ統計は AI の夢を見る』聖学院大学出版会（現在プリント版はない模様です。電子版が利用可能）をテキストにして、この本を丁寧にかつ分からないことがないように読んで行きます。基本的には1人が内容を報告し、全員で検討していく方式です。また、計算式などはできるだけ丁寧に展開してもらいます。要約するのではなく、一行ずつ詳細に検討して行きます。エクセルなどを用いて計算などやれればと思います。この過程の議論や疑問を通して、全員の理解度を上げていき、AIについての皆さんの知見を広がられればと思います。AIはブラックボックスではないこと、その本質は専門家でなければ理解できないものではないこと、そしてAIは様々な学問との連携が必須であることを利用する側として楽しく眺めましょう。</p> <p>補足：最初の部分はモジュール科目「情報と社会」で簡単に触れて部分です。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えについて、分かりやすく伝え、討論することができる。・現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を統合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。
テキスト	テキスト：松原望著『ベイズの誓いーベイズ統計は AI の夢を見る』聖学院大学出版会（現在プリント版はない模様です。電子版が利用可能） 参考書：小島寛之『完全独習ベイズ統計入門』ダイヤモンド社
成績評価の方法と基準	各回の各自の報告と討論への参加を総合的に評価する。
その他	
教員連絡先	kfuku@nagasaki-u.ac.jp （メール） 095-820-6357（研究室電話）

○基礎ゼミ

前期

火曜日 4校時開講

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 加藤 誠

課題テーマ	グローバル化社会の一員として国際的課題を考察する
内容と方法	<p>【内容】 モノ・サービス、お金、人、情報が、頻繁にかつ大量に国境を越えて移動する時代となり、日本と諸外国との関係が多分野において深まっています。本ゼミでは、こうしたグローバル化社会を生きる私たちが直面する世界共通の課題や日本との関係が深い諸外国の状況について、共に考察していきます。</p> <p>【方法】 1. 毎回、テキストの1単元のテーマを取り上げます。 2. ゼミ生は、テキストの該当箇所及び LACS に追加掲載する補足資料を予習して、課題討議のための基礎知識を得ます。 3. ゼミでは、まず、提示された課題についてグループ別に討議を行います。 4. 次に、各グループの代表者が討議結果の発表を行います。 5. その後、全体での討議（質疑応答）を行います。 (注) グループは、期間中、複数回組替えを行います。</p>
到達目標	<p>経済学部 HP の「受講の手引き（学部）」にあるカリキュラム・マップ」を参照してください。 基礎ゼミは次の2つの DP を授業到達目標としています。 DP-3：自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。 DP-4：現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。</p>
テキスト	「私たちの国際経済—見つけよう、考えよう、世界のこと（第3版）」（有斐閣ブックス）
成績評価の方法と基準	グループ討議への貢献度：50% 全体討議への貢献度：50%
その他	日本を含む世界各国が直面している国際経済上の課題や日本と諸外国との経済的な結びつきについて関心を有する学生を歓迎します。
教員連絡先	E-mail: makoto.kato@nagasaki-u.ac.jp

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名：島田 章

課題テーマ	2022年度に受講したマクロ経済学Ⅰを復習してきちんと理解すること。
内容と方法	内容：2022年度に受講したマクロ経済学Ⅰを復習してきちんと理解するために必要な勉強をすること。 方法：報告者は教科書の割り当て部分のレジュメをつくり、それに基づいて報告をおこなう。報告者以外は報告にたいして質問やコメントをし、報告者はそれに答える。さらに全員でディスカッションする。
到達目標	基礎ゼミは次のDPを授業到達目標としている。 DP-3：自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。 DP-4：現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。
テキスト	家森信義[著]『マクロ経済学の基礎 [第2版]』中央経済社、2021年刊
成績評価の方法と基準	ゼミでの報告と質疑にたいする貢献(100%)を以下の点を中心に判断する。 <ul style="list-style-type: none">・報告者は十分に予習をし、わかり易いレジュメを期限までにつくったか。・報告者は出席者に口頭や板書でわかりやすく説明をしたか。・出席者は報告者の報告を理解しようとして聴いていたか。・出席者は不明な点を積極的に質問したか。
その他	参加者は2022年度にマクロ経済学Ⅰを受講した人が望ましい。 対面でゼミを行う場合、報告にあたった人は、授業時に紙に印刷したレジュメを全員に配布すること。
教員連絡先	shimada@nagasaki-u.ac.jp 電子メールを送る場合は、件名に「2023年度基礎ゼミ受講者、送信者氏名(学生番号)、要件は何々」などを入れること。

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 林川 万理水

課題テーマ	企業情報開示
内容と方法	<p>企業情報開示は財務情報の開示を中心として、情報内容・情報量・開示方法が多様化している現状がある。当基礎ゼミでは、広く企業情報開示の意義を理解し、意思決定行動に欠かせない適正な開示について追究していく。</p> <p>(1) 基礎テキストを用いて企業情報開示の機能的意義を理解し、現行の開示手段の妥当性を検討する。</p> <p>(2) 監査を含む一連の企業情報行動と意思決定行動のケースを考察し、問題分析と理想の開示システムについて議論を行う。</p> <p>(3) 創造した理想のシステムの実行可能性を検証する手段として、社会科学における「行動実験」がもつ役割を理解する。</p> <p>(4) 演習を行う。</p> <p>上記(1)～(4)について、テキスト理解を深めるプレゼンを輪番制で行い、その後、教員が提供する教材を使って議論をし、当領域の学術研究の手法についても現状を学ぶ。</p>
到達目標	企業情報開示の意義を理解し、現行制度の問題を的確に指摘できるようになる。さらに、問題解決のための議論の作法を学ぶ。
テキスト	内藤文雄『会計学エッセンス第5版』中央経済社、2022年。
成績評価の方法と基準	プレゼンテーションとディスカッションの内容、その他のゼミ中のワークの成果で評価する。その他詳細は、初回ゼミで開示する。
その他	
教員連絡先	hmiyuki@nagasaki-u.ac.jp 095-820-6386

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 藤田泰昌

課題テーマ	リサーチデザインを考える
内容と方法	<p>社会科学における重要な研究目的の1つは、社会現象の背後にある因果関係を明らかにすることにあります。興味深い因果関係を、説得力のある形で示すことが、社会科学の目標の1つだと言います。では、興味深い因果関係とはどのようなものでしょうか。どのようなことを示せば、因果関係に関する主張の説得力が増すのでしょうか。こうした因果関係に関するいくつかの基本的なポイントを理解し、実践するための基礎を身につけることが本ゼミの目的です。</p> <p>以上の目的に向けて、本ゼミでは以下のような内容と方法を採用する予定です。負荷の大きいゼミになります。</p> <ul style="list-style-type: none">①先行研究を読んで、因果関係に関する基本的なポイントを学ぶ②教員が提示するテーマに関する研究計画を、グループワークを通して設計・発表する（2回）
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・因果関係を説得的に示すための基本的なリサーチデザインのありかたを理解する・リサーチデザインのありかたを踏まえた研究計画を立てることができる・リサーチデザインのありかたを踏まえて、他者の立てた研究計画の問題点や改善案を提示できる
テキスト	特になし
成績評価の方法と基準	授業参加度 授業やグループワークに向けた準備および貢献度
その他	参考書として、以下を挙げておきます。 <ul style="list-style-type: none">・久米郁男 2013『原因を推論する』有斐閣・伊藤修一郎 2022『政策リサーチ入門』東京大学出版会
教員連絡先	fujitaf@nagasaki-u.ac.jp

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名：南森 茂太

課題テーマ	長崎を歩く，読む，そして学ぶ
内容と方法	<p>【内容】 長崎は元亀2年(1571)にポルトガル船の寄港地となったことで，日本と外国とを結ぶ窓口になりました。また江戸時代にあつては，幕府の外交政策により幕末までは，外国船の来航が唯一許可された港であり，そのことがあつて長崎は他の日本国内とは異なる独自の文化を育むことになりました。</p> <p>ところで，経済学部のある片淵は，本学の他のキャンパスよりも江戸時代における長崎(現在の長崎市とは大きく異なります)に近く，そのために経済学部で学ぶ皆さまは「本当の長崎」を知るには最高の条件にあります。この利点を活かすべく，令和5年度の基礎ゼミでは長崎を歩き，読むことで，長崎の今と昔を学びます。</p> <p>【方法】 具体的には以下のことに取り組みます。</p> <p>(1)史跡を実際に歩き(①内町と外町の見学，②出島の見学，③グラバー園の見学，④長崎歴史文化博物館の見学)，長崎の歴史を学ぶ。</p> <p>(2)班ごとに『新長崎市史』第2巻の指定箇所を読み，その内容をまとめ，報告することで，長崎の歴史を学ぶ。</p>
到達目標	<p>① 近世の長崎に触れることで，近世日本経済史に関する基本的な知識を身につける。</p> <p>② 経済史研究に必要なフィールドワークの技法を身につける。</p> <p>③ 自分の考えについて，わかりやすく伝え，討論することができる。</p>
テキスト	購入の必要はありません。長崎大学附属図書館が所蔵する『新長崎市史』第2巻をご利用ください。
成績評価の方法と基準	ゼミナールやグループ学習への参加意欲，プレゼンの良否により評価します。
その他	長崎が大好き，歴史が大好きという方，ぜひ一緒に学びましょう！！
教員連絡先	shigeta373mori@nagasaki-u.ac.jp

○基礎ゼミ

第2クォーター

火曜日 4・5校時開講

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名：木村眞実・西村宣彦合同ゼミ

課題テーマ	長崎の地場産業の課題発見に関する研究
内容と方法	<p>このゼミは木村ゼミと西村ゼミの合同で実施する。 ビジネス実践力育成プログラム履修者を優先する。 この基礎ゼミは2Qで実施する。1Qで開講するプロジェクトリテラシーの受講を必須とし、プロジェクトリテラシーで学ぶツールを実践的に活用することによって、長崎県の地場産業の問題を自らチームで発見する。 この科目の履修者は、第三クォーターで開講するビジネスリサーチに参加でき（必須ではない）、基礎ゼミで自ら発見した課題について事業者とともに解決策の立案・解決策の試行を行う。 基礎ゼミは5人のチームで行い、それぞれのチームには3年生のアシスタントをつけて活動を行う。事業者や顧客への対面インタビュー調査、アンケート調査、他地域の事例調査、事業者とのワークショップ等を実施し、それらの結果をもとにした地場産業の課題を事業者に対して発表する。 今回は長崎県の主要産業である、水産加工食品（かまぼこ）を対象とする。 （取り組む産業については、まだ確定ではなく、変更の可能性はある）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none">● 社会課題を発見するための、文献調査、インタビュー調査、アンケート調査が実施できるようになる。● 人との対話方法、グループでの対話の方法（ファシリテーション）、レポート・プレゼンの方法を実践的に理解できるようになる。● チームでプロジェクトを行うための管理ができるようになる。
テキスト	特になし プロジェクトリテラシーで提供される教材を利用する。
成績評価の方法と基準	チームへの参加度、チームとしての活動、最終報告、プロジェクトリテラシーで学ぶ知識の活用度を総合定期的に判断して評価する。
その他	ビジネス実践力育成プログラム履修者を優先する。 2Qに開講する。1Q開講のプロジェクトリテラシーの受講を必須とする。
教員連絡先	木村；mkimura@nagasaki-u.ac.jp 西村；nishimra@nagasaki-u.ac.jp

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名：山口純哉

課題テーマ	地域社会の持続可能性にかかる課題と政策
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> ●この基礎ゼミは、ビジネス実践力育成プログラム履修者を優先する。 ●この基礎ゼミは2Qで実施する。1Qで開講するプロジェクトリテラシーの受講を必須とし、プロジェクトリテラシーで学ぶツールを実践的に活用することによって、長崎県下の地域が抱える課題の克服について検討する。 ●この基礎ゼミの履修者は、3Qで開講するビジネスリサーチに参加でき（必須ではない）、基礎ゼミで自ら発見した課題について事業者とともに解決策の立案・解決策の試行を行う。 ●この基礎ゼミでは、5人程度のチームを編成して資料・フィールド調査やワークショップなどに取り組み、その成果を地域にフィードバックする。 ●この基礎ゼミでは、地域の持続可能性という観点から、地域の抱える課題について、長崎県もしくは県下市町と連携して政策や施策を検討する予定である。なお、いずれの市町もしくは県と、どの分野の課題について連携するかは未定である。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●社会課題を発見するための、文献調査、インタビュー調査、アンケート調査が実施できるようになる。 ●人との対話方法、グループでの対話の方法（ファシリテーション）、レポート・プレゼンの方法を実践的に理解できるようになる。 ●チームでプロジェクトを行うための管理ができるようになる。
テキスト	特に指定せず、適宜指示する。
成績評価の方法と基準	講義中に課される課題、平素の学習への取り組みを総合的に評価する。
その他	講義の履修等に支障のない範囲で受講生と調整し、時間割に定められた2Qの時間以外にも調査研究活動に取り組みます。
教員連絡先	山口純哉: junya-y@nagasaki-u.ac.jp

○留学生との共修ゼミ

前期

月曜日 4校時開講

令和5年度基礎ゼミ演習指針

教員名： 丸山真純

課題テーマ	多文化共修を通じた多文化共生プロジェクト
内容と方法	<p>言語や文化背景の異なる受講生がチームを編成し、プロジェクトによる課題解決型のゼミを行う。</p> <p>具体的には、一学期という限られた時間で可能な範囲内で：</p> <ul style="list-style-type: none">a) 留学生が直面する課題（キャンパス内での課題）b) 長崎で生活する、または、観光で訪問する海外出身者が直面する課題を発見し、解決するプロジェクトを遂行する。 <p>受講生は、語学力、コミュニケーション力を含む異文化能力だけでなく、プロジェクトを企画・運営する基礎的な能力を養う。</p> <p>様々な価値観やワークスタイルをもつメンバーと切磋琢磨し、葛藤や衝突、また成功体験を内省することにより、国際社会におけるリーダーシップやチームワークのあり方を、相互の協働により俯瞰する力を身につける。</p> <p>教員は、基本的にファシリテーターであり、受講生の自発的参加により進行する。</p> <p>なお、ゼミの共通言語は「英語」である。ただし、チーム内での合意のもとに、それ以外の言語を使用すること、英語と混ぜて使用することは構わない。</p>
到達目標	<p>学部の以下の DP：</p> <p>DP-3:自分の考えについて、わかりやすく伝え、討論することができる。</p> <p>DP-4:現代社会の課題に対して、幅広く深い教養、専門領域や隣接領域の知識と高度な応用分析能力を総合して、現実を踏まえた解決と新たな価値の創造を図る能力を身につけている。</p> <p>加えて：</p> <ul style="list-style-type: none">a) 言語・文化背景の違う多様な学生と英語でプロジェクトに取り組むことで、異文化コミュニケーション能力を身につける。b) 「成果」を意識した期間限定プロジェクトの企画・実施を通じて、基礎的な社会貢献を体験する。c) 多角的視点で社会・大学コミュニティを見直すことにより、自らの価値観や社会観を問い直す機会を得る。d) 問題解決への方策を考察・実行できるグローバルかつ柔軟な考察力を身につける。
テキスト	未定だが、基本的には、必要な資料を教員が用意する予定
成績評価の方法と基準	レポート；プレゼンテーション；プロジェクトへの貢献；プロジェクトの成果
その他	本ゼミを担当するのは、はじめてなので、受講生の理解度、希望などを勘案しながら進める予定である
教員連絡先	本館 6階 masazumi[@]nagasaki-u.ac.jp